

更生施設 本木荘 保護施設通所事業（定員：通所22人・訪問3人）〔平成28年度事業報告〕

1 事業総括

利用者及び福祉事務所からのニーズは高く、1年を通して安定的に運営できた。新規開始は通所11人、訪問2人であった。大きな事故等はなく、利用者の地域での生活を支えることができた。

『本木荘トライワーク・プログラム』に半数近くの利用者が参加した。食事サービスも併せて利用することで、日中活動の場として定着し、毎日、通所する利用者も多い。所内作業は、新規開拓には至らなかったが、安定的に受注し、作業効率が高いことから他施設の作業を請け負うこともあった。借り上げアパート事業を積極的に活用し、実践的なアパート訓練を行い、地域へのアパート転居を円滑に実施した。アパート生活の継続が困難になった場合は、本木荘に再度入所受け入れをして、立て直しの支援をした。

毎月の通所懇談会のほか年7回の行事を開催し、単調になりがちなアパート単身生活に潤いをもたらし、生活意欲の喚起と教養娯楽の提供に努めた。主体的に参加してもらえるように、懇談会で情報共有を積極的に行い、計画段階から参加してもらえるように働きかけた。

視認性の高い安否確認を徹底し、連絡がとれない場合は、迅速に緊急訪問を実施した。安否確認の基準日を週中に設定することで、機動力のある緊急訪問の職員体制作りを行った。

	定員			28年度実績						27年度実績			
				新規開始数（対定員利用率）						新規開始数（対定員利用率）			
通所	22人			10人（50.0%）						11人（50.0%）			
訪問	3人			2人（66.6%）						3人（100.0%）			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
通所	23	22	21	20	19	20	20	18	20	20	21	21	20.4
訪問	1	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	2	1.3

2 主要目標に対する成果

- (1) **本木荘トライワーク・プログラム等を活用した支援の提供**
半数近くの利用者が参加している。障害や疾病等で一般外部就労が難しい利用者が多い。作業に参加することにより、リズムのある生活を構築し、生きがいにつながっている。他の利用者との交流も楽しみにしている利用者は多い。部屋に引きこもることのないように、働きかけた。
- (2) **利用者の権利を守り、安定した地域生活継続に向けた支援の実施**
利用者の希望を尊重した支援計画の作成を行い、地域生活の維持と生活向上に努めた。また、通過型の通所事業として、通所事業終了後の地域生活を見据えた支援を実施した。
- (3) **福祉事務所をはじめとする関連機関と連携した包括的な支援の実施**
福祉事務所・病院等の関連機関と密に連携し、ケースカンファレンスを定期的を実施することで、隙間ない支援の実践に取り組んだ。
- (4) **定期的な安否確認による利用者の安全確保**
体調不良や生活上の問題が発生した時は、いつでも施設に相談するように伝えた。安否確認は職場全体で緊張感を持って実施した。必要に応じて、緊急訪問を迅速に実施した。
- (5) **地域社会・関係諸機関等の多様なニーズに応える事業の展開**
包括支援センターや近隣病院等と連携し、地域社会に根差した支援の実践に取り組んだ。

3 運営管理

- ・借り上げアパート（4室）を積極的に活用した。アパート生活の継続が困難になった場合は、本木荘に再度入所受け入れした。バックアップセンターの住宅相談事業を活用した。
- ・精神状態の悪化等に陥った場合には、必要に応じて迅速に緊急訪問や緊急宿泊を実施した。
- ・看護師による健康相談を実施した。必要があれば、服薬管理を実施した。
- ・栄養士の居宅訪問による食事指導を実施した。利用者の能力や状況に合わせた助言を行った。
- ・利用者の生活能力についてアセスメントを実施したうえで、生活能力の向上を図った。支援が必要な事項について、金銭管理、衛生管理、就労活動、関係機関との連絡調整等の支援を実践した。通過型の通所事業として、通所事業終了後の地域生活を見据えた支援を実施した。
- ・毎月の通所懇談会、調理実習、夏祭り、バーベキュー、日帰り旅行、ボウリング会、食事会、もちつき大会、カラオケ会を計画的に実施した。
- ・所内作業では、作業懇談会の実施による「グループの結束力」を高める取り組みを行った。
- ・安否確認は、視認性の高いボードを活用し、全ての職員が現況把握を容易にできるようにした。

